

北見工業大学学報

第 290 号 (2018 年 11 月号)

目 次

入 学 式	平成 30 年度秋季大学院入学式を挙行……………	3
研 究 助 成	平成 30 年度共同研究の受入状況……………	4
	平成 30 年度受託研究の受入状況……………	5
	平成 30 年度奨学寄附金の受入状況……………	5
人 事	人事異動……………	6
受 賞	本学大学院生が Outstanding Poster Presentation Award を受賞……………	7
諸 報	簿記研修を実施……………	8
	美山小学校「科学ものづくりクラブ」で学生が活動協力……………	9
	三楽児童センターで出前体験学習を実施……………	10
	工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業開講式……………	11
	遠軽高校との高大連携協定に基づく事業を実施……………	12
	父母懇談会(秋季 札幌・東京)を開催……………	13
	Bio Japan 2018 北海道ブースに出展……………	14
	消防訓練を実施……………	15
	北見北斗高校と高大連携協定を締結……………	16
	自動車技術会 2018 年秋季大会産学ポスターセッションに出展……………	17
	ブック・プロジェクトによるビブリオバトルを開催……………	18
第 2 回学生選書ツアーを実施……………	19	
社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催……………	20	
メッセナゴヤ 2018 北海道ブースへ出展……………	21	

	第32回北海道技術・ビジネス交流会(ビジネス EXPO)に出展	22
	「第3回ハッカソン in 北見」を開催	23
	北海道中小企業家同友会オホーツク支部 「オホーツク☆未来塾」を開催	25
	駐日エジプト大使が御来学	26
	アグリビジネス創出フェア in Hokkaido に参加	27
	アグリビジネス創出フェア 2018 に出展	28
	職員表彰式を挙げる	29
	永年勤務者表彰式を挙げる	30
	「アジア国際子ども映画祭 2018」に係る学校交流を実施	31
目 誌	10月・11月	32

= 入学式 =

平成 30 年度秋季大学院入学式を挙行

(総務課)

平成30年度秋季大学院入学式が、10月1日(月)午前10時から本学第1会議室で行われました。

鈴木聡一郎学長から、留学生を含む5人の入学が許可された後、「高い専門知識の習得や研究室での研究活動だけにとどまらず、日常生活から様々なことにチャレンジし、

広い視野や高い応用能力、課題解決能力をブラッシュアップしていただきたい」と激励の言葉がありました。

引き続き、総務課長から役職員等の紹介が行われました。

入学者は次のとおりです。

大学院工学研究科博士前期課程

専攻名	入学者数(人)
情報システム工学専攻	1
バイオ環境化学専攻	1

大学院工学研究科博士後期課程

専攻名	入学者数(人)
寒冷地・環境・エネルギー工学専攻	3



入学式に臨む新入生



お祝いの言葉を述べる鈴木学長

= 研究助成 =

平成30年度共同研究の受入状況

平成30年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民 間 機 関 等
オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	センター長	村田 美樹	ハッカからの有効成分抽出法の開発と評価	株式会社北見薄荷通商
オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	センター長	村田 美樹	ハッカ生草の利活用法の開発	株式会社北見薄荷通商
オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	センター長	村田 美樹	人工光源による和種ハッカの育成	株式会社北見薄荷通商
オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	特任教授	高橋 是太郎	牛尿完全醗酵生成物の魚類成育環境水に対する水質改善効果に関する研究	株式会社環境ダイゼン
オホーツク農林水産工学 連携研究推進センター	特任教授	高橋 是太郎	オホーツク海産ヒトゲの高度利用に関する研究	株式会社龍榮総研
地球環境工学科	准教授	古瀬 裕章	着氷雪除去のためのレーザー光源の最適波長に関する研究	国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所
地球環境工学科	准教授	舘山 一孝	雪氷モニタリングセンサのサブシステム技術の開発	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構/ 株式会社センテナリア
地域未来デザイン工学科	助教	宮崎 健輔	プラスチックの塗布型酸化促進剤の高機能化に関する研究	双日株式会社/ピーライフ・ジャパン・ インク株式会社
地域未来デザイン工学科	准教授	星野 洋平	重量物搬送装置「バッテリートラック」のシステム解析と 多用途最適化に向けた制御系構築の研究	エクセン株式会社
地域未来デザイン工学科	教授	川村 彰	ワイヤレス路面性状測定装置の開発	株式会社PROFICT LAB
地域未来デザイン工学科	教授	原田 建治	参加型プロジェクションマッピング教材の開発	株式会社アイエンター

平成30年度 累計98件

平成30年度受託研究の受入状況

平成30年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研究題目	委託機関	所要経費
地域未来デザイン工学科	教授	高橋 清	自動運転と道の駅を活用した生産空間を支える新たな道路交通施策に関する研究開発	国立大学法人室蘭工業大学	円 1,419,317
地域未来デザイン工学科	准教授	原田 康浩	安全で効率的な航空機の冬季運航を目指した滑走路雪氷モニタリングシステム技術の開発	国土交通省	4,583,252
地域未来デザイン工学科	教授	三浦 則明	相関型顕微鏡補償光学系の開発：生体観察に適した波面計測法の研究	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構	3,000,000

平成30年度 累計11件

平成30年度奨学寄附金の受入状況

平成30年11月30日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究者	寄附目的	寄附者	寄附金額(円)
地域未来デザイン工学科	教授	柴野 純一	研究助成金	社会医療法人抱生会丸の内病院	円 200,000
地球環境工学科	助教	胡 杰	海外で開催されるシンポジウムへの出席に要する旅費・交通費及び宿泊・滞在費などに対する助成	公益財団法人スズキ財団	180,000
地球環境工学科	助教	木田 真人	「北海道の将来の地域振興や産業の発展に資する先導的な研究」を担う若手研究者の支援	公益財団法人北海道科学技術 総合振興センター	300,000
地球環境工学科	教授	大野 智也	マツダ研究助成金として (研究題目) 「触媒粒子とカーボン粒子の複合化による高性能酸素発生反応用触媒の開発」	公益財団法人マツダ財団	1,000,000
地域未来デザイン工学科	助教	河野 義樹	奨励研究助成(若手研究者) AF-2018036 二相チタン合金の微視組織イメージを用いた変形解析環境の構築とそれを用いた結晶粒間/異相間変形相互作用の解明	公益財団法人天田財団	2,000,000
地球環境工学科	准教授	古瀬 裕章	一般研究開発助成 AF-2018216 高出力超短パルス加工光源を目指した大口径サファイア/YAG接合体の開発	公益財団法人天田財団	2,000,000
地域未来デザイン工学科	准教授 助教	井上 真澄 崔 希燮	工学研究助成	ドービー建設工業株式会社	250,000
地域未来デザイン工学科	教授	三上 修一	オホーツク地域橋梁長寿命化計画策定の工学的検討	株式会社中神土木設計事務所	1,812,000
地球環境工学科	助教	川尻 峻三	工学研究のため	株式会社ドーコン	500,000
地球環境工学科	助教	渡邊 達也	紋別港における非破壊試験による空洞化調査方法の確立のため	北海設計株式会社	1,120,000
工学部	特任教授	大橋 鉄也	工学研究のため	企業組合北見産学医協働センター	927,180
	学長	鈴木 聡一郎	学生に対する支援	北見工業大学後援会	1,000,000
地球環境工学科	助教	川尻 峻三	釧路川堤防のり面の表層崩壊に関する浸透流・安定解析のため	株式会社ドーコン	1,300,000
地球環境工学科	准教授 准教授	白川 龍生 高橋 理音	常温硬化型ガラスコート(無機質系塗料)に係る融雪コーティング実用実証試験について	株式会社昇竜建設	1,000,000

平成30年度 累計71件

= 人事 =

人 事 異 動

(総務課)

○大学発令

発令年月日	現職名	氏名	新職名(発令事項)
30.11.1	(新規採用)	(ようかわ けん) 陽川 憲	工学部助教
30.12.1	(新規採用)	(うえさわ もり) 上澤 森	学長企画室事務職員

= 受賞 =

本学大学院生が Outstanding Poster Presentation Award を受賞

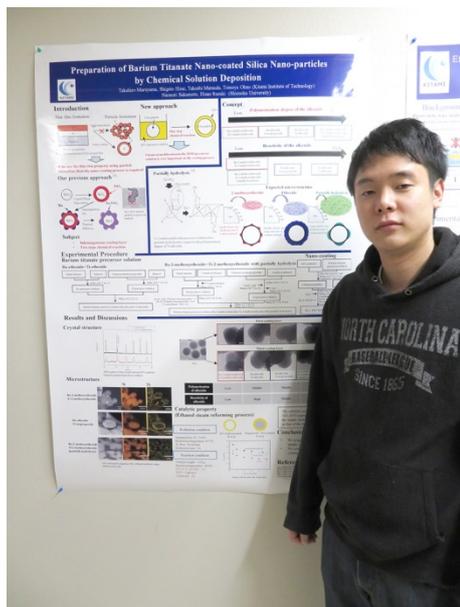
(マテリアル工学専攻)

この度、本学大学院生の丸山堯弘さん(博士前期課程 マテリアル専攻 1 年、指導教員：大野智也教授)が 35 th Korea-Japan International Seminar on Ceramics において、Outstanding Poster Presentation Award を受賞しました。

本国際会議において、丸山さんは「Preparation of Barium Titanate Nano-coated Silica Nano-particles by Chemical Solution Deposition」(日本語タイトル：液相法によるチタン酸バリウムを

コートしたシリカ粒子の調製) という題目で発表しました。チタン酸バリウムは誘電体材料として、携帯電話など様々な電子デバイスに搭載されていますが、ナノ粒子表面にチタン酸バリウムを均一にコーティングする技術は、これまで開発されていませんでした。

本発表はこの技術を液相法により達成したものであり、他分野の材料開発への応用も含め、非常に意義がある技術として評価され、今回の受賞に至りました。



= 諸報 =

簿記研修を実施

(財 務 課)

平成30年度国立大学法人北見工業大学簿記研修が9月18日（火）から11月6日（火）の期間で実施されました。

本研修は、国立大学法人会計基準を理解する上で必要となる日商簿記検定3級程度の知識を習得することを目標としています。北見情報ビジネス専門学校から講師をお招

きし、全15回の講義が行われました。

現在、財務・経理事務を担当している財務課職員をはじめとして、本学事務職員14名が業務の合間を縫って受講しました。

受講者は、日商簿記検定3級合格を目指し、熱心に講義を受講していました。



講義の様子

美山小学校「科学ものづくりクラブ」で学生が活動協力

(学術推進機構)

9月20日(木)及び11月8日(木)の両日、昨年に引き続き、北見市立美山小学校「科学ものづくりクラブ」において本学の学生が指導役となり、ものづくり体験教室を開催しました。この取り組みは、オホーツク地域エネルギー環境教育研究会(OE³=オー・イー・キュービック)の活動をきっかけに始まったものです。学生たちは、身近な材料を用いて簡単にできる工作を通じて、小学生に科学の楽しさを知ってもらおうと事前に入念な準備等を行い工夫していました。

第1回目は、飛行機が飛ぶ仕組みについて説明を行ったあと、紙飛行機を作成し、グラウンドで試験飛行をさせて、それぞれ飛行した軌道に合わせて翼の調整を指導し

ました。

第2回目は、虹が見える条件について説明を行ってから、雨粒に見立てた小さなガラスビーズと画用紙を使って、画用紙の中に虹がかかっているように見えるボードを作りました。両日とも20人ほどの児童が参加し、好評を博しました。また、参加した学生からは「事前準備や小学校との調整を含め大変だったが、子どもたちに喜んでもらえて貴重な体験になった」との感想がありました。

この活動は、本学の地域貢献だけではなく学生にとっても貴重な機会になることから、今後も継続していきたいと考えています。



紙飛行機が飛ぶ仕組み



虹を作ろう

三楽児童センターで出前体験学習を実施

(技 術 部)

9月28日(金)、北見市三楽児童センターにおいて「出前体験学習」を実施しました。実施テーマは「キューブパズルをつくろう」、「むらさきキャベツの色を変えよう」、「マグナスcupどこまで飛ばせる!!」、新しいテーマとして「かさふくろ飛行機を作って飛ばそう(傘袋を膨らませ、羽根をとりつけ飛行機に)」、「パラシュートをつくろう(ビニール袋にイラストを描き、発泡スチロール球に粘土を詰め重りに)」の5テーマをブース形式で行いました。

主に中央小学校に通う児童36名の参加が得られました。参加した児童のアンケート結果からは「おもしろかった(100%)」、「ま

た参加したい(100%)」と大好評でした。センター職員からは「子どもたちが本当に楽しんでいます。是非、来年も実施して欲しい」と要望されました。また、終了時には子どもたちから思いもかけない「お礼の言葉」を頂き、スタッフの疲れが癒された瞬間でした。

午後から3時間ほどの体験学習でしたが、子どもたちは工学の面白さの一端を体感できたものと思います。

開催にご尽力いただきました北見市子ども未来部青少年課、三楽児童センターの職員の皆さまおよび関係各位に深く感謝申し上げます。



キューブパズルを作ろう



かさふくろ飛行機を作って飛ばそう



むらさきキャベツの色を変えよう



思いもかけず子どもたちから「お礼のことば」をいただきました

工学連携推進型地域6次産業人材育成事業開講式

(社会連携推進センター)

10月1日(月)、社会連携推進センターが中心となり進めている、「工学連携推進型地域6次産業人材育成事業(旧・新時代工学的農業クリエーター人材創出プラン)」の開講式を行いました。本事業は、第一次産業産品の工業製品化を地域戦略の柱とし、健康と安心・安全をキーワードにした新規作物の作付けから商品開発・事業化までの知識とスキルを持つ「工学的農業クリエーター」の創出を目指す人材育成プログラムです。本学が大学として取り組んでいる人材育成活動であり、現在は北見市の協力をいただきながらの運営となっています。

開講式では有田敏彦社会連携推進センタ

一長による開講の挨拶に続き、事業説明、教員・スタッフの紹介、受講生による自己紹介・決意表明が行われました。今年度の受講生は、社会人が3名、本学学生が2名の計5名ですが、悪天候の影響で開講式には学生2名のみでの参加となりました。受講生は、大豆やたまねぎなどの地元産食材を用いた商品の開発や、ハーブを用いた研究に挑戦する予定です。

本事業では、今後も本学の工農連携研究推進活動と連動させながら、修了生の継続的なフォローアップや人材育成を推進していきます。



開講式の様子

遠軽高校との高大連携協定に基づく事業を実施

(学 務 課)

本学は、北海道遠軽高等学校との高大連携協力に関する協定を締結しています。本協定は、本学と北海道遠軽高等学校が連携することにより、高等学校教育と大学教育との円滑な接続を図り、人材育成に資することを目的に平成25年度に締結したものです。この協定に基づき下記の事業を実施しました。

★遠軽高校ピアサポート事業

10月6日(土)、本学学生13人が遠軽高校を訪ね、遠軽高校生に対し、数学を教える事業「遠軽高校ピアサポート」を実施しました。

本事業は、本学学生が指導方法を体得することを目的として実施しているものです。1～2人の遠軽高校生に対し、1人のピアサポート大学生がつきっきりで高校生に学習指導を行いました。

参加した高校生18人からは、「丁寧に教えてもらえてわかりやすかった」、「大学受験の話が聞けて良かった」などの感想が聞かれました。また、本学学生からは、「人にわかりやすく教えることの難しさを学んだ」などの感想が寄せられ、それぞれ充実した1日となった様子でした。

本学では、今後もこれらの事業を継続するとともに、遠軽高校との高大連携協力の更なる連携強化を図っていこうと考えています。

★異校種連携事業

11月14日(水)、遠軽高校で開催された「遠軽町異校種連携の日」に本学から3つの講座を開設しました。

本事業は、小・中・高校及び道内大学の連携により、系統的なキャリア教育の推進を目的として実施しているものです。

本学開催の講座『「温度」って何だろう？－温度と熱の関係－』、『液状化実験ボトルを作ってみよう』、『極低温を体験しよう！！』に遠軽町内の小学6年生及び中学2年生約120人が参加し、それぞれ実験を行いました。

参加した小・中学生は、普段触れることのない大学の研究に触れ、科学に対する興味を持つとともに、学習意欲への大きな刺激を受けたようでした。



本学学生から数学を教わる高校生



実験の説明を聞く中学生

父母懇談会（秋季 札幌・東京）を開催

（学 務 課）

例年開催している「父母懇談会(秋季 札幌・東京)」を、札幌は10月8日（月・祝日）に北海道大学高等教育推進機構、東京は10月21日（日）に学術総合センターを会場としてそれぞれ実施しました。今年度は、例年実施している副学長による全体説明会の実施を見送り、教員との個別面談に重きを置いて実施しました。

札幌会場には87組の保護者が参加、東京会場には66組の保護者が参加し、いずれの会場とも個別面談では修学状況、就職等に

ついて保護者から質問が出され、熱心にやりとりが交わされました。また、控え室に設けた職員による個別相談コーナーでも、奨学金や就職、カリキュラムなどについて熱心なやりとりが交わされました。

参加した保護者からは「先生から本人の話聞いて良かったです」、「制度や仕組みを詳しく教えて頂き理解することができました」、「先生が、学生の事をよく理解して下さっていると思いました」などの声が寄せられました。



個別面談の様子



個別相談コーナーの様子

Bio Japan 2018 北海道ブースに出展

(社会連携推進センター)

10月10日(水)～12日(金)の3日間、パシフィコ横浜を会場にBio Japan2018が開催されました。

本イベントは今年で20回目となるバイオ・メディカル産業におけるアジア最大級のパートナーリングイベントで、国内外から製薬会社や医療機関、研究機関が多数参加しました。ブース展示の他、セミナーやプレゼンテーションが行われ、研究機関や企業などの最新の研究成果が紹介されました。同時開催の再生医療Japan2018と併せて879機関が出展、来場者は1万6千人にのぼり、イベントの規模は過去最大となりました。

本学は一昨年度から北海道庁、札幌市、ノーステック財団が共同出展する「北海道バイオクラスター」ブース内に出展しています。今年度は、地域未来デザイン工学科

小西正朗教授の取り組む「人工知能と成分分析による天然物の見える化と製造プロセス応用：食品～医薬品まで」について紹介を行いました。会場では小西教授と社会連携推進センター内島典子准教授が来場者への説明を行いました。

本イベントでは、展示以外に実用化に向けた具体的な商談や技術相談を行うマッチングシステムが運用されています。本学においても、出展前から面談の依頼をいただくなど、研究内容への関心が伺えました。

国内外から広く参加者が集まる本イベントは収穫も多く、本学の研究を広くアピールできる貴重な機会のひとつです。既に次年度の開催も決定しており、今後も出展を継続していきたいと考えています。



研究紹介を行う小西教授



北海道バイオクラスターブースの様子

消防訓練を実施

(施設課)

10月11日(木)、震度5強の地震に伴う火災発生を想定した訓練を実施しました。

訓練当日は9号館・10号館の学生・教職員、事務局職員の約60名が参加しました。訓練は本学10号館無機物理化学第1研究室を仮想火元として、第一発見者である学生の通報から始まり、学生や教員による初期消火、自衛消防隊による避難誘導および救助活動等を実施しました。

避難訓練に続き屋内消火栓の取扱・放水訓練、消火器の取扱訓練を実施しました。

消火器取扱訓練では、使用説明の後、本物の消火器の代わりに訓練用の水消火器を使い消火訓練を行いました。消火器取扱訓練終了後は、立ち会った北見地区消防組合本部の署員から講評をいただきました。

消防訓練の最後には、鈴木聡一郎学長から9月の胆振東部地震等災害が頻発していること、気温が下がり暖房の使用が増えるので暖房を使う際には注意をすること等の挨拶をいただき、訓練は無事終了しました。



発見者による通報と初期消火の様子



鈴木学長からの挨拶

北見北斗高校と高大連携協定を締結

(学 務 課)

10月15日(月)、北見工業大学と北海道北見北斗高等学校との高大連携協力に関する協定を締結しました。

この協定は、本学と北見北斗高校が連携することにより、高等学校教育と大学教育との円滑な接続を図り、人材の育成に資することを目的としています。

協定の締結前から、本学教員が北見北斗高校で講演をしたり、北見北斗高校生が本学教員の研究室を訪れたりと交流を重ねていました。それらの交流を踏まえ、お互いにさらなる連携・協力をしていこうという強い思いが今回の協定締結に至りました。

同日に行われた調印式では、鈴木聡一郎学長は「オホーツク地域から全国、海外に羽ばたく人材の育成に繋がる連携をしたい」と述べ、渡部道博校長からは「高

校生と大学生の研究に対するモチベーションが上がるような取り組みを考えたい」との抱負が述べられました。また、北見北斗高校が指定校となっているスーパーサイエンスハイスクール事業についても、本学が全面的に協力していくことを改めて確認しました。

今後は、今まで行っていた交流はもちろん、新たな連携事業についても本学と北見北斗高校で協議しながら考え、実施していくこととなっています。

今回の協定締結により、本学と北見北斗高校の学生・生徒への教育だけでなく、教員の研究活動にも繋がる連携が期待されており、今後の取り組みに注目が寄せられています。



握手を交わす鈴木学長(右)と渡部校長



調印式に出席した本学、北見北斗高校の幹部ら

自動車技術会 2018 年秋季大会産学ポスターセッションに出展

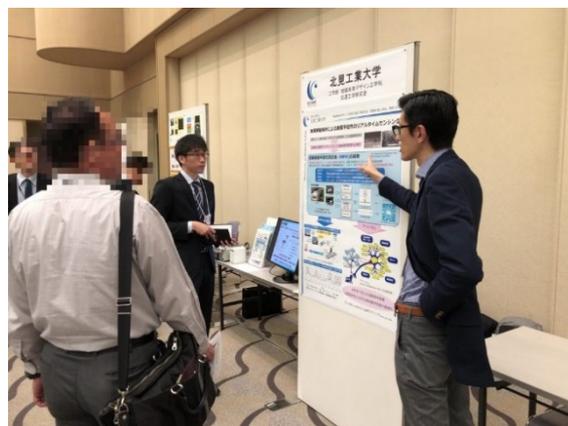
(社会連携推進センター)

10月17日(水)～19日(金)の3日間、名古屋国際会議場を会場に自動車技術会2018年秋季大会が開催されました。秋季大会では、「産学ポスターセッション～シーズとシーズの出会い～」が開かれ、今年度は全国32の学術機関の研究室が2つの会場に分かれて自動車技術に関する研究成果の発表を行いました。

本学は技術広報の一環として本ポスターセッションに参加しており、今年度は地域未来デザイン工学科交通工学研究室 富山和也准教授、川村彰教授が取り組む「車両挙動解析による路面平坦性のリアルタイムセンシング」、同ロボット制御・ITS研究室 川村武准教授が取り組む「RFIDシステムによる車線の情報化および車両誘導」につい

て紹介しました。会場では17日・18日の2日間、両教員と交通工学研究室の学生2名がブースでの説明や、モニターを用いた研究紹介などの展示を行いました。今年度は自動車産業の盛んな地域での開催ということもあり、両ブースには自動車関連企業を中心に2日間で100名以上の来場者がありました。

本イベントでは、他大学や自動車関係の業種の方との情報共有や、研究や開発に本格的な取り組みが期待できる情報交換が行われました。学生にとっても研究を通じて他大学・企業との交流を図る貴重な経験ができる機会となっています。今後も研究者にとって研究の発展に有意義な場としてぜひ活用していきたいと考えています。



イベントの様子

ブック・プロジェクトによるビブリオバトルを開催

(情報図書課)

10月23日(火)、本学図書館コミュニケーションホールを会場として、読書推進の学生ボランティア団体であるブック・プロジェクト(BP)主催による「全国大学ビブリオバトル2018」の予選会を開催しました。

今年の発表者は、BPの中から2年生2名、4年生1名、大学院生1名の計4名が、自身のおすすめ本について5分間という制限の中でプレゼンし、観戦者から積極的に投げかけられる質問に答えました。投票の結果、村上春樹著「バースデーガール」をプレゼンした高橋毬百さん(バイオ環境化学科4年)

が、昨年に引き続きチャンプ本を獲得しました。

11月3日(土)には旭川で北海道地区決戦が行われ、高橋さんは志賀晃著「スマホを落とすだけなのに」で、ここでも見事チャンプ本を獲得し、12月に立命館大学大阪いばらきキャンパスで開催される全国大学ビブリオバトル2018～大阪決戦～に北海道代表として出場することが決定しました。

高橋さんの全国大会での活躍が大いに期待されます。



ビブリオバトル開催の様子

第2回学生選書ツアーを実施

(情報図書課)

10月24日(水)、コーチャンフォー北見店において、平成30年度第2回「学生選書ツアー」を実施しました。

この企画は、図書館に配架する本を書店で学生に選んでもらうもので、学生がおもしろいと感じ、必要とされる本を、学生の目線で選んでもらうことを目的としています。

今回は「将来役に立ちそうな知識が身に付けられる本」、「勉強の息抜きにピッタリな本」、「教養が深まる本」のいずれかのテーマのもと選書を行いました。当日は、学

部学生8名、大学院生1名の合計9名が参加し、テーマに沿った本を真剣に選んでいました。今回の選書ツアーでは合計48冊の本が選書され、バラエティに富んだ様々な種類の本が揃いました。

今回選ばれた本は図書館の展示コーナーにおいて、選んだ理由を記載したカードと併せて展示されており、平成31年1月7日(月)まで展示する予定です。

是非、図書館にお越しいただき、本学の学生がオススメする本を手にとってご覧ください。



店内で真剣に選書する参加者の学生

社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催

(社会連携推進センター)

10月30日(火)、本学において社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議を開催しました。

本会議は、オホーツク地域の経済発展及び地域活性化を目指し、周辺自治体・大学・公設試験場・包括連携協定締結機関等の関連部署担当者に「産学官連携推進員・協力員」として委嘱を行い、地域における産学官連携に関する協議・情報交換等を行っているものです。

今回の主な議題は「オホーツク農林水産工学連携研究推進センターについて」及び「卒業生の地元定着を目的とした本学の取組みについて」として協議を行いました。

始めに、本学が今年7月に設置したオホーツク農林水産工学連携研究推進センターの取組みについて、村田美樹センター長から紹介があり、農林水産業に対して幅広く工学的支援を行う体制を整えたことが説明されました。次に、地域産業を支える意欲

と能力のある若者を地方創生の中心として育成し、北海道内に定着させることを目指す「COC+事業」について、本学卒業生の就職状況等を交え、有田敏彦社会連携推進センター長から説明がありました。いずれの議題も地域と関連が大きいことから、これらの取組みに対して各自治体・機関からはそれぞれ抱えている課題や現状の取組み、今後本学との協力の在り方等についてご発言をいただき、本学が地域から強い期待を寄せられていることを再確認する場となりました。

本会議出席者は、総勢31人となり、産学官連携推進員・協力員及び大学関係者が一堂に会して意見交換を行ったことは大変有意義な機会であったと思います。

今後もこの会議を有効に活用し、地域に貢献する大学として地域との連携、課題解決に向けて取り組んでいきたいと考えています。



有田敏彦社会連携推進センター長の挨拶



会議の様子

メッセナゴヤ 2018 北海道ブースへ出展

(社会連携推進センター)

11月7日(水)～10日(土)の4日間、ポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)を会場としたメッセナゴヤ2018が開催されました。

本展示会は中京圏を中心とした自動車関連企業、名古屋地域のものづくり企業が出展参加する日本最大級の異業種交流展示会です。また、展示会場では各種セミナーの開催や学生の就職支援の他、昨年に引き続き東日本・熊本復興支援コーナーが設けられるなど、様々な催しが行われました。1400機関を超える企業・団体が出展し、来場者は約6万2千人にのびりました。

北海道庁では、中京圏市場に対し、北海道内企業や学術機関の高度な技術・製品等のアピールを目的として北海道ブースを設

けています。北海道の企業や学術機関が有する自動車関連技術、医療、エネルギー、環境関連技術、そして寒冷地技術を活かした新エネルギー・省エネルギー化などの取り組みに焦点をあてた展示を行い、19の企業・団体・自治体と4つの大学が出展しました。

本学は、地域未来デザイン工学科 富山和也准教授と川村彰教授が取り組む「車両挙動解析による路面平坦性のリアルタイムセンシング」について紹介しました。7日、8日は富山准教授が現地で来場者への説明を行いました。

本学は中京圏出身の学生が多く、名古屋で行われた本展示会への参加は、大学広報の面からも貴重な場となりました。



イベント会場の様子

第 32 回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）に出展

（社会連携推進センター）

11月8日（木）・9日（金）の2日間、アクセスサッポロを会場に第32回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）が開催されました。

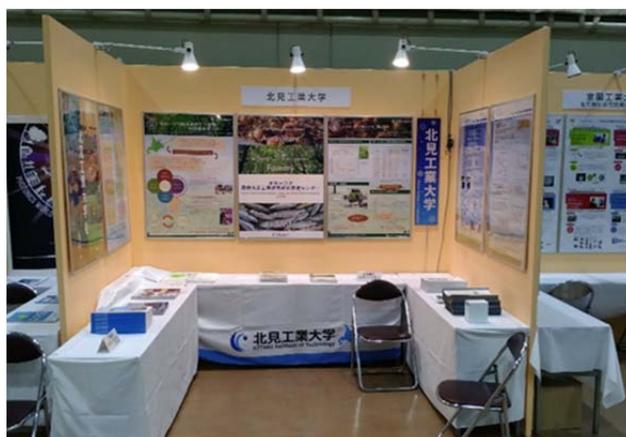
本イベントは北海道内の産学官金の関係諸機関が協力し、開催している北海道最大級の産業関連連携マッチングイベントです。今年度は357の企業・団体が参加し、過去最大となる約2万1千人の来場者が訪れました。今回新たに「先端技術ゾーン」が設けられ、“到来する未来社会”をイメージさせる最先端イノベーションに関する展示が行われました。

本学は「学術・試験研究機関展示ゾーン」

において、今年5月に設置された「オホーツク農林水産工学連携研究推進センター」についてパネル展示と紹介を行いました。札幌近郊の高校生も見学に訪れ、入試案内など本学の紹介を行うことも出来ました。

本イベントには例年、出展者や来場者として本学出身の卒業生も数多く訪れます。仕事の面での興味だけでなく、懐かしさに惹かれて立ち寄るなど、母校への愛着を垣間見ることがもできました。

本イベントは就職等の情報収集にも大変役立つ良い機会であり、本学を紹介することの重要性を再確認する場となりました。



本学のブース

「第3回ハッカソン in 北見」を開催

(学術推進機構)

11月10日(土)、11日(日)の2日間にわたり本学学生を対象とした「第3回ハッカソン in 北見」が、本学17号館で開催されました。

ハッカソンとは、限られた期間内に仲間同士で企画段階からソフトウェア開発を行い、開発技術やソフトウェアのプレゼンテーション、そのソフトウェアの活用方法などを競い合うもので、3回目となった今回は過去最多となる16チーム、52人の参加者が集まりました。

「北見を盛り上げる」を開発テーマとして、協賛企業各社の技術者からアドバイスを受けながら、スマートフォン用アプリケーションや、WEBシステム、VRアプリケーションなど5つの分野に分かれてチームごとに、2日間開発作業に没頭しました。プログラミング経験の無い学生や、「カーリングの練習に利用できるソフトウェアを作りたい」という具体的なプランを持った学生など、

年次や所属学科を問わず様々な学生が参加していました。

2日目の午後には各チームが3分間のプレゼンテーションを行い、『アイデア・完成度・社会性』を基準に選考が行われました。その結果、スマートフォンを持ったままシャドーボクシングの動作を行うと回数がカウントされ、記録された回数に応じて飲食店のクーポンを貰えるという想定で開発されたアプリケーションに大賞が贈られました。審査員からは「運動とグルメを合体させた発想と、限られた時間の中で高い完成度にまで開発した点が素晴らしかった」とのコメントがありました。

本大会は地方創生を目的として、地元自治体や企業が学生と交流の機会を持つという側面もあることから、今後も他機関と連携しながら地域を盛り上げていきたいと考えています。



開発作業の様子



プレゼンテーションの様子



見事大賞に輝いたチーム



大会参加者全員の集合写真

北海道中小企業家同友会オホーツク支部 「オホーツク☆未来塾」を開催

(学術推進機構)

11月15日(木)、本学A102講義室にて、北海道中小企業家同友会オホーツク支部(以下、同友会)主催による「オホーツク☆未来塾」が開催されました。この取り組みは本学と同友会が締結している包括連携実施覚書によるもので、地域企業の経営者や社員を対象に「北見工大の知恵を企業経営に活用しよう!」をテーマに開催されています。

第1回では「北見工業大学と取り組む産学官連携とは」及び「地域との協力と学生の地元就職について」と題して、それぞれ社会連携推進センター 内島典子准教授と鞘師守特任教授が講演を行いました。

講演の後、20人以上の出席者は4、5人

を1グループとして「オホーツク地域に住み、働く立場から北見工大の活用法について考える。また、地域の良さを考える」をテーマに様々な業種や観点からグループワークを行い、話し合った内容を発表しました。グループワークや質疑を含め、盛況のうちに閉会の時間となりました。

この取り組みは全3回の構成となっており、第2回は本学オホーツク農林水産工学連携研究推進センターの研究紹介、第3回は情報科学を活用した地域観光課題について、それぞれ本学教員が講演する予定となっています。こうした取り組みをきっかけに、本学から地域に向けた情報発信をさらに強めていきたいと考えています。



同友会共育委員会 林正道委員長の開会挨拶



内島准教授による講演



鞘師特任教授による講演



グループワークの様子

駐日エジプト大使が御来学

(国際交流センター)

11月16日(金)、アイマン・アリ・カーメル駐日エジプト大使が本学を訪問されました。

当日は、許斐ナタリー国際交流センター長が本学の紹介及び国際交流活動について説明し、柴坂俊雄副学長から制御系の体系的設計論、渡邊康玄副学長から河川の防災技術に関する研究について、それぞれ紹介しました。その後、研究施設を案内し、本学が重点を置くエネルギー分野で、メタンハイドレートに関する研究を行っている「環境・エネルギー研究推進センター」の八久保晶弘教授から説明を受け、熱心に質

問をされていました。

今回の大使御一行の北見訪問は、母国エジプトの子どもたちを励まそうとして制作した動画が同国で高く評価され、出演した人たちに感謝の意を伝えるためです。

動画制作を主導したフセイン・ザナティ氏が本学博士後期課程出身であり、在籍中に行っていた初等教育に関するエジプト・ミニア大学との研究交流に対するご挨拶も兼ねて来学されました。

大使は本学を訪問後、北見市立図書館において市内の子どもたちに感謝状を贈られました。



アイマン・アリ・カーメル駐日大使(中央)と関係者



メタンハイドレートの説明を受ける関係者

アグリビジネス創出フェア in Hokkaido に参加

(社会連携推進センター)

11月16日(金)、17日(土)の2日間、サッポロファクトリーを会場に「2018アグリビジネス創出フェアin Hokkaidoー北海道の食と農の明日へー」が開催されました。NPO法人グリーンテクノバンクが主催し、11月20日(火)～22日(木)に東京ビッグサイトで開催される「アグリビジネス創出フェア」の北海道版という位置づけの本イベントには、食や農業に関する約30の企業・団体が出展しました。

今回は今年5月に設置された「オホーツク農林水産工学連携研究推進センター」と「工学連携推進型6次産業人材育成事業(以下、工農事業)」について紹介を行いました。また、共同出展の北見市雇用創造協議会が

らは、工農事業の受講生が開発に携わった大豆粉の「ソイフロランタン」とカーリングストーンの形状をした「ストーンクッキー」の試食も行われ、多くの来場者の興味を集めました。本学ブースではこれら商品に関するアンケートも行い、今後の商品開発において有益な情報を得ることができました。

会場ではブースプレゼンテーションも開催され、多くの方に本学ブースを訪れていただきました。本学の卒業生も来場し、本学の最近の動向に興味を持っていただきました。「ビジネスEXPO」と同様、本学卒業生への近況報告や就職活動、入試案内など、様々な面で意義の深い場となりました。



本学の展示ブース



ブースプレゼンテーションの様子

アグリビジネス創出フェア 2018 に出展

(社会連携推進センター)

11月20日(火)～22日(木)の3日間、東京ビッグサイトでアグリビジネス創出フェア2018が開催されました。

本イベントは全国の公的機関等が有する農林水産・食品分野などの最新の研究成果を紹介し、研究機関間や事業者との連携を促す場として農林水産省が主催しています。本学は平成19年度より継続して出展しており、今年度から先端技術ゾーンが新設され、全国148機関が出展しました。

今年度は、今年5月に設置された「オホーツク農林水産工学連携研究推進センター」と、本学が平成18年度から実施している「工学連携推進型6次産業人材育成事業(以下、

工農事業)」について紹介しました。22日には同センター長の村田美樹教授が、センターの概要や特色についてプレゼンテーションを行いました。また、工農事業の受講生が開発に携わった製品の試食とアンケート調査も行われ、今後の製品開発に役立つ貴重な意見を伺うことができました。

本イベントへの参加は、工学による農林水産業の支援・発展への貢献に向けた活動を知っていただく貴重な場となっています。本学は地域に生きる大学として、地域の核である第一次産業を支える研究について、今後も広く紹介して行きたいと考えています。



本学ブース(左)と村田センター長によるプレゼンテーション(右)

職員表彰式を挙

(総務課)

11月22日(木)、平成30年度国立大学法人北見工業大学職員表彰式が第2会議室において挙

行されました。鈴木聡一郎学長から被表彰者に対し、表

彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われ、輝かしい功績の数々に対する敬意とお祝いの言葉が贈られました。

被表彰者は、次のとおりです。

北見工業大学職員表彰被表彰者 (50音順)

氏名	成果等
酒井大輔	Information Photonics 2017 Outstanding Poster Award の受賞
柳 等	平昌オリンピックカーリングチームリーダーとして男女同時入賞に貢献



職員表彰式被表彰者

永年勤務者表彰式を挙る

(総務課)

11月22日(木)、平成30年度国立大学法人北見工業大学永年勤務者表彰式が第2会議室において挙行されました。

鈴木聡一郎学長から被表彰者に対し、表

彰状の授与並びに記念品の贈呈が行われ、永年にわたる本学への貢献に対する感謝とお祝いの言葉が贈られました。

被表彰者は、次のとおりです。

北見工業大学永年勤務者表彰被表彰者(50音順)

30年勤務者

氏名	所属学科等
山田浩嗣	工学部

20年勤務者

氏名	所属学科等
高橋理音	工学部
中村大	工学部
松本正之	技術部
三橋恵治	技術部



永年勤務者表彰式被表彰者

「アジア国際子ども映画祭 2018」に係る学校交流を実施

(国際交流センター)

11月22日（金）、北見市での開催が4回目となる「アジア国際子ども映画祭2018大会」にノミネートされたアジア15カ国地域のうち、ラオスとミャンマーの高校生17人と通訳・引率を含めて総勢24人が学校交流のため来学しました。

許斐ナタリー国際交流センター長が歓迎の挨拶と本学の説明を行った後、グループに分かれて研究室見学を行いました。

環境・エネルギー研究推進センターでは、メタンハイドレートの説明と燃える氷を実際に見学し、ドライビングシミュレーターでは実際に運転を体験しました。

冬季スポーツ科学研究推進センターでは、スキーシミュレーターについての説明と、実際にシミュレーターを体験する等、本学

の研究内容を直に触れる機会に満喫していたようでした。その後、文化交流として武道場において、尺八・琴の伝統楽器体験、浴衣を着てサンバ北見ばやしを踊る等をして楽しみました。本学剣道部の学生によるデモンストレーションは大いに盛り上がり、初めて剣道を見た生徒ばかりで、防具や竹刀に触れたり、写真撮影等を行い興奮している様子でした。また、ラオスから来た高校生は持ってきた民族衣装をその場にいた日本人に着せてくれることになり、会場は国際的な衣装で華やかな雰囲気になりました。

3時間程度の交流でしたが、帰り際の舞う雪に興奮しながら高校生たちは名残り惜しそうに本学を後にしました。



ドライビングシミュレーターを体験



かっこよくポーズを決める生徒たち

= 日誌 =

10 月

- 1日 大学院秋季入学式、工学連携推進型地域6次産業人材育成事業開講式、オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 3日 高大連携事業「数学Ⅲ補習講座」(～11日)
- 4日 地域連携・国際交流委員会
- 5日 インターンシップ事後研修会
- 6日 高大連携事業「ピアサポート」
- 8日 父母懇談会(札幌)
- 11日 消防訓練、発明審査委員会
- 12日 教務委員会、就職ガイダンス
- 17日 教育研究評議会、役員会、編入学試験(第2次募集)出願受付(～23日)
- 18日 学生委員会
- 19日 女子学生のためのキャリアセミナー
- 21日 土木の日見学会、父母懇談会(東京)
- 23日 アドミッションセンター運営会議、ビブリオバトル
- 24日 学生選書ツアー
- 26日 就職ガイダンス
- 29日 第2回公開講座(～31日)
- 30日 iThenticate利用説明会、社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議

11 月

- 1日 推薦入試・帰国子女入試出願受付(～8日)
- 2日 就職ガイダンス
- 3日 官公庁合同セミナー
- 5日 オホーツク産学官融合センター事務局会議
- 6日 第3回公開講座(～7日)
- 8日 教務委員会
- 10日 大学入学共通テスト平成30年11月試行調査(プレテスト)
- 12日 推薦入学者選抜実施委員会
- 13日 編入学試験(第2次募集)学力検査・面接試験
- 14日 教育研究評議会、役員会、高大連携事業「異校種連携事業」
- 15日 発明審査委員会、研究交流会
- 16日 就職ガイダンス
- 19日 第4回公開講座(～22日)、就職内定者向け研修
- 20日 学生委員会
- 26日 推薦入学者選抜実施委員会
- 28日 役員会、業界研究ガイダンス
- 29日 入学試験実施委員会